

令和5年度 第3回 温海地域振興懇談会 会議概要

- 期 日 令和5年11月28日（火） 午後2時～午後4時05分
- 会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席者 五十嵐收一会長、佐藤静夫委員、佐藤昌幸委員、飯塚厚司委員、三浦英喜委員、佐藤容介委員、本間健一委員、佐々木真人委員、本間静華委員、片岡正孝委員、野尻晶委員、佐藤俊介委員、五十嵐明美委員、五十嵐晴美委員、（14名）

欠席者 (0名)

【温海庁舎】

市側出席者 粕谷支所長、伊藤総務企画課長、剣持市民福祉課長、本間産業建設課長、
総務企画課 佐藤地域まちづくり企画調整主査、奥田主査

【企画部】

政策企画課 大滝主任
地域振興課 齋藤地域振興専門員

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 0名

※会議開会前に「やまがたイノベーションプログラム2023」ビジネスコンテストに参加された、山形県立鶴岡工業高等学校の生徒3名から温海地域の課題に対する提案として、里山活性化プロジェクト「やまがたダッシュ村構想」について発表いただいた。

- 次 第
1. 開 会
 2. あいさつ 五十嵐收一会長
粕谷一郎支所長
 3. 報 告
(1) 令和5年度温海地域主要事業の進捗状況について資料1
 4. 協 議
(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（案）について資料2
(2) 温海地域振興計画（素案）について資料3
(3) その他
 5. その他
 6. 閉 会

○委員発言の概要

3. 意見交換

(1) 令和5年度温海地域主要事業の進捗状況について

説明：温海庁舎各課長

I 委員

・健康診査事業について、対象者 2,800 名に対し 1,140 名が受診と受診率が 40.8%と低いのではないかと。自分の職場では全員受診させ、要精密検査となった者には再検査へ行ったかまで確認している。「通院していれば、特に健診は必要ない」という話も聞くが、受診が遅れたため病状が悪化するケースもあるようだ。突然死がないように、未受診者への指導や助言など出来る体制を整えていただきたい。

剣持市民福祉課長

・かかりつけ医がおり、定期的な受診をしているので集団健診には行かないという方が多数いるようだ。担当地区の保健師が健診を受けるよう指導しているが強制はできない。今後も、機会を見計らい総合健診を勧奨していく。

G 委員

・後期高齢者医療制度により人間ドックを受診した。市の国民健康保険加入時には補助があり個人負担 6 千円で受診できたが、後期高齢者医療制度では、検査項目が減ったのに検査費用が上がった。私は日本海病院の定期検診を受けているので、来年から総合健診を受診せず、個別受診した方がいいなと感じている。なぜ、後期高齢者医療制度には健診の補助が出ないのか。

剣持市民福祉課長

・制度等の詳細について、後程、担当者から回答させていただく。

F 委員

・「道の駅あつみ移転整備事業（継続）」について、「移転後における現道の駅の跡地活用等の検討を行う。」とあるが、この道の駅の土地の所有者は。
・事業の進捗状況について、グラフなどを活用し一目で分かるように工夫をお願いしたい。

本間産業建設課長

・土地の所有者は鶴岡市である。

伊藤総務企画課長

・事業の進捗状況の表し方については、次回以降検討する。

A 委員

・松くい虫防除事業について、現在、松くい虫の被害が、鶴岡市・酒田市と広がっている。被害のあった樹木を残しておく、次年度大発生すると聞いており、温海では、調査はしているようだが、実際に被害のあった松を伐採していないのではないかという話もあった。今年度の予定をお聞きしたい。

本間産業建設課長

・松くい虫防除対策を始めて 20 年以上になると思う。毎年の予算枠に限りがあるため、今の時期に被害木を調査し、年明けから森林組合と伐採場所につ

いて検討し効果的に伐採していく。

A委員

・予算約 90 万円のうち、調査費が約 30 万円だったと思うが、残りの予算では幾らも伐採できない。例えば、酒田や七窪の辺りは、農業に深刻な影響があるため松くい虫被害のある木を伐採しているが、温海地域は、観光地として無理に伐採しなくてもよいと思われているのではないか。しかし、松くい虫防除対策として、必要な費用を予算要求し、被害木をきちんと伐採していないと次年度も同じような状況になり、そのうち全部枯れてしまう。

本間産業建設課長

・鶴岡市は、西郷から鼠ヶ関まで広い海岸線があり、約 90 万円の予算は、温海地域の事業予算であり、市全体の総額としては大きい予算となっているので、本所担当課と相談しながら温海地域の伐採する本数を増やす努力をしていく。

L委員

・現在使用の「もやすごみ」の袋が薄く破れやすい。箸等少し尖ったものを入れると袋が破れてしまう。袋を二重にして出すことは不可とのことなので、ゴミ袋の色が変わると同時に袋の厚さも検討してほしい。

剣持市民福祉課長

・新しく変わるゴミ袋の色の変更について周知したが、まだ、製造までに至っていない。ゴミ袋の厚さについては、貴重なご意見として承り本所担当課へ伝える。

C委員

・「もやすごみ」のゴミ袋の色を変える理由は何か。中身が見えては困るという意見もあるが、見えやすい色にする理由を教えてください。

剣持市民福祉課長

・1年に2回程度、ゴミ収集施設で「もやすごみ」の中身調査をしており、その中で、本来入れてはいけない金属類が入っていることが多々あるようだ。最悪の場合、焼却施設が止まってしまう、修理費として最低でも 100 万円以上かかると言われている。市全体から見て、温海地域はマナーが良い方だと思うが、マナーを守ってもらうために、半透明のような乳白色に変更する。

A委員

・以前、ゴミについての会議に出席した際に、ゴミ収集の有料化の話があった。今回はゴミ袋の値段を高くするという事はないのか。
・以前プラスチックごみは、全部燃やさないで焼却炉の温度が上がらないので燃やすという話があった。将来的にごみが減っていく中で、プラスチックごみを燃やさなくても温度を確保できるのか。

剣持市民福祉課長

・ゴミ収集の有料化やゴミ袋の値段については未定である。将来的には検討が必要と思うが、ゴミ袋の色の変更を令和 7 年秋頃を予定しており、その後

に検討されると思われる。

- ・焼却炉の適正温度について、把握していないが、確認し後程お知らせすることは可能。

C委員

- ・新道の駅に向けて、鮮魚販売の実証実験を行っているが、鮮魚以外で実証実験を行っているか。
- ・新道の駅の事業主体が決定後、道の駅の運営に市がどのくらい関与できるのか。地場産品を売ることで地場産業が伸びていき、自分たちも新しい道の駅が出来て良かったと思えるような対応をお願いしたい。

本間産業建設課長

- ・鮮魚以外の地場産品については、現在道の駅で販売している。今回実証実験を行ったのは、これまで取り扱いの少ない鮮魚である。
- ・新道の駅の事業者が決定した場合、運営主体は、現在の第3セクターから民間の事業者になる。市が運営に対し関与することはできないが、契約時に「この程度の水準で運営してください」と記した水準書をもとに事業計画を立てることとなる。このため水準書に合った事業を行っているかどうかを市がモニタリングを行い、水準に達していない場合は指導するという形になる。

4. 協 議

(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画(案)について

(2) 温海地域振興計画(素案)について

説明：温海庁舎総務企画課 佐藤地域まちづくり調整主査

I委員

- ・先ほどの高校生のプロジェクトの発表について、内容とてもよい。このようなプロジェクトを実現できる方向に持って行っていただきたい。
- ・農業に関して、耕作放棄地が多数あるということだが、今朝の農業新聞に、震災のあったいわき市でオリーブを4500本植え、陸前高田市では柚子を2000本植え、これを活用し販売している記事があった。温海地域には三角そばや温海かぶがあるが、何かもっと新たなものが出来ないか。いろんなスイーツ等になるようなものを考え、先ほどの高校生のプロジェクトに付け加えていただけたらありがたい。
- ・道の駅あつみの移転後の跡地の活用について、現在の道の駅あつみの出入口は非常に危険で事故も多発している。併せて道路の改良なども検討していただきたい。

五十嵐収一会長

- ・検討の要望として取り扱う。

C委員

- ・新道の駅を避難場所として活用できるような文言を盛り込んでいただきたい。以前の避難場所は高台で若干盛土し、いろいろ問題になったとか、7mの

津波がくるから、相当高くしなければならぬとかそれが今 4m になったから、2m のかさ上げが必要等いろいろな話を聞いている。資料 3 の 7 ページを見ても、防災に関して道の駅を利用するという文言が入っていないので、地区住民の安全を考えた上で、そうした防災設備も兼ね揃えるということを示していただきたい。

本間産業建設課長

・新道の駅の要求水準書に防災拠点という部分を載せている。具体的な内容については、事業者の提案となる。

五十嵐収一会長

・ぜひ地域振興計画に、新道の駅の防災面での活用について言葉を入れることを検討していただきたいという主旨。

F 委員

・資料 2 の自然・歴史・文化を生かした交流人口、関係人口の拡大について、体験型観光や教育旅行で来た人たちに、様々な体験の他、地域をより深く知ってもらうために、地域の様々な文化を DVD にして見せてはいかがか。自分自身、DVD でしな織の作業工程を見ることで、しな織が出来るまで非常に手間がかかっており、その大変さがわかった。山五十川の歌舞伎や能の説明の DVD や、越沢のそば打ちなどの DVD などを市が作成してはいかがか。

本間産業建設課長

・貴重な提案として受け止めさせていただく。

粕谷支所長

・地域の文化資料として、以前、市の社会教育担当が峠ノ山の大黒舞等撮りためたものがある。また、地域の PR として、山五十川自治会では 11 月 23 日の秋祭典に公民館で独自に作成した DVD を、越沢の「まやのやかた」では NHK で特集された映像を流していた。それぞれの地域が工夫し映像で PR している。地域の PR 映像は、市の助成制度等を活用しながら、地元が主体的に取り組んでいただければと思う。

F 委員

・自分の集落には獅子舞があり、自分がホームビデオで撮り DVD にして氏子総代等に配っている。温海地域には、優れた舞が多くあるので、それらを DVD にして、温海ふれあいセンターで貸し出す考えはないか。ライブラリーで、峠ノ山の大黒舞も見たいものもある。いろんな集落のものがあつたらよいと思う。

粕谷支所長

・ライブラリーの件も調べてみる。

J 委員

・温海ふれあいセンターでは「視聴覚ライブラリー」を揃えている。8 ミリの古いものから最近のものまで、文化財や旧町内の様子等を納めたものなど様々あり、インターネットでホームページから見るができる。ただし、

小さな集落でないものもあるので、新規追加で撮影できたらよい。

・資料3の11ページ「教育環境の充実」について、生涯学習振興会に今春から地域おこし協力隊が配置されており、様々な用務の中、地域未来塾の運営に関わっている。未来塾を運営している事務局は温海庁舎総務企画課だが、生涯学習振興会として未来塾について把握していない部分がある。また、資料1の2ページNo.8「温海地域教育環境充実事業委託料」について、事業主体が温海地域生涯学習振興会と記載されているが、未来塾の担当は、温海庁舎総務企画課であり、未来塾の運営は温海中学校地域学校協働本部となるので、この記載は、温海中学校地域学校協働本部の方がふさわしいと思う。令和5年度進捗状況に、地域おこし協力隊の業務として、あつみ地域未来塾コーディネイト業務と記載があるが、具体的な業務を教えてください。

・「子育て世代に選ばれる魅力のある地域を目指す」ことについて、前回の会議を欠席したので文書で回答いただいた。「庁舎では子育て世代に選ばれる魅力とは具体的にどういうものか」という質問に対し、「子育て世代に選ばれる魅力は、あつみ福社会や小中学校と連携し、保育園から中学校まで一貫した生きる力を育む教育SELと考える」と回答いただいた。私も保育園に子供が通っているので、将来、ここで育ち学ばせてよかったと感じると思うが、現在、子育て中の親世代がそれを魅力に感じているかということ、そうでもないのかなと思う。もちろん長い目で見て「大きくなった時にすばらしいところだった、よかった」と実感はできると思うが、保育園留学も含め、温海地域外から来た人にこのSEL教育の魅力を伝えるときに、どのような戦略でPRをしていくのか。

伊藤総務企画課長

・資料1のNo.8に温海地域教育環境充実事業委託料の事業主体について、地域おこし協力隊の受け入れ先が「温海地域生涯学習振興会」という表記である。

・地域おこし協力隊が現在ミッションとして取り組んでいることの一つに、未来塾のコーディネイトがある。コーディネイトの内容は、講師の先生とのやりとりや会場準備等であるが、子どもたちのために「自習室開放」と少しステップアップした取組を行っていただいている。

・最後に、子育て世代に選ばれるということでSEL教育に力を入れているが、成果があらわれるまで、長い目で見ないといけないと思っている。今年度、保育園留学により鼠ヶ関保育園で、首都圏の子どもの受け入れを行っており、そこで、生きる力を育む教育を、子どもから体感してもらいつつ、保護者からもご理解いただくことを考えている。保育園留学は、これまで二家族を受け入れしたが、非常に好評価をいただいている。「こっちの保育園の方がいい」という子どもの感想もある。このSELの教育について温海地域は先進地であるということ専門家の先生から伺っており、令和6年度はその先進地たる温海地域をもっとPRし全国に発信していきたいと考えている。

B委員

- ・KPIについて、越沢三角そばの栽培面積と焼畑あつみかぶの販売単価は、生産団体等と協議した数値と思うが、その経過を教えてください。
- ・資料3の10ページ主な施策(3)「持続可能な営農体制の構築」の具体的な施策に「土地利用型農業」と掲載されている。人口が6,000人から3,000人に減少すると農地が大きく荒れてくるということは、農地が余ってくるので土地利用型作物になってしまうのは当然であると思う。非常によいと思うが、経済活動としては、具体的な施策にある「調整活動に取り組む」では弱いのではないかと。担い手対策、働き手の対策、もっと言えば農村RMO(農村型地域運営組織)にも取り組んでいかないと、実際には持続可能というところまでいかないとと思うので、もう少し踏み込んだ形で進めていただきたい。

本間産業建設課長

- ・KPI設定の経過として、焼畑あつみかぶは、項目(測り方)を「販売単価」としていたが、価格は収量と比例するため、なかなか掴みにくいのではないかと議論となり、一度、項目(測り方)を焼畑あつみかぶの「出荷生産者数」に変更した。しかし、生産者の高齢化により、就農者数が減っていく中、成果指標として出荷生産者数を増やせるのか再度検討した結果、もとの「販売単価」とし、ブランド力向上を目指すこととした。
- ・越沢三角そばの栽培面積については、三角そば組合の目標値であり、焼畑あつみかぶも焼畑あつみかぶブランド力向上対策協議会の目標値となっている。

五十嵐収一会長

- ・持続可能な営農体制の構築の具体的な施策として、調整活動だけでは少し物足りなく弱いと私も思ったので検討していただきたい。

本間産業建設課長

- ・ご意見として承る。

A委員

- ・資料3の、12ページ主な施策(4)高齢者がいきいきと暮らせる環境づくりについて、以前移住希望される方を一生懸命募集していたが、可能ならば方向を変えて子育て世代ではなく、高齢者の移住を促してはどうか。例えばここに高齢者が住んだら、子どもたちも遊びに来ると思う。高齢者を呼べるような生き生きとした温海づくりというものができるかどうかは個人の力に関わってくると思うが、個人の力に頼るのではなく温海が主導をとり、高齢者がいきいきとした環境づくりをやっていただきたい。

剣持市民福祉課長

- ・市全体の取組にもなるので、一つの案ということで承る。

G委員

- ・高齢者の移住は家族が増えない。保育園留学含め、市全体でも様々な事業に取り組んでいるようだが、人口減少は止まらない。根本的に取組を見直し

ていく必要があるのではないか。全国的に幼児や小学生がいる子育て家族が移住しているところが人口増加になっているようだ。温海地域には、豊かな地域資源があるので、良い知恵を絞っていただきたい。

D委員

・今回の計画はよいと思う。1番目にあつみ温泉、2番目に新道の駅、それから子育て関連とここまではよいと思うが、何か本質がずれていないか。人口を増やすことに主眼を置いて計画づくりをすべきではないか。商店が廃業、撤退しており、集落の中に商店がないところが多く見受けられる。買い物も仕事も多くは市街地に行かなければならない状況で、温海地域で果たして移住し子育てをしたいと思うのか。新たな人が就業、起業するなどを考えていかなないと人口増加は難しいと思う。

L委員

・未来塾は、以前教師をされていた方等から授業をしていただいている。子どもたちは、鶴岡の塾に行かなくても、温海地域で皆が同じ受験に向かい、落ち着いて勉強出来ている。最近では、講師陣に慶應義塾大学の学生や山形大学の学生が加わったことにより、中学生は年が近く話しやすいからか質問している。事業に関わり4年目となるが、自分の役割としては、先生と生徒が話しやすく、生徒が何でも質問できるような雰囲気づくりと思っている。内容も年々充実しており、とても素晴らしい事業だと思う。

H委員

・SEL教育について、保育園で取組を始めた頃は、あつみ福祉会や保育士の職員も私たちがやっていることが本当にSEL教育につながっているのか手探り状態だったが、今年度からは保育園留学の受け入れも行っている。

・保育園留学を実際受け入れてみると、都会の方たちと私たちとでは、感覚に違いがあると感じた。私たちにとっては、地域の人と触れ合うことなど普通のことが、都会の人たちには、非日常で特別なことであり、その人たちが実は求めていることだったりする。保育園の中では、在園児が、首都圏から来た子どもたちに自分から関わろうとする姿も見られ、新しい刺激を受けていることがわかる。子どもの成長は、3日や1週間後とすぐに表れるものではなく、本当に長い目で見ないと成果が出てこない。しかし着実に子どもたちにも自分の感情を振り返ってみることや、お友達とここは一緒だなと考えることが芽生えていたりする。職員も、自分たちが取り組んできたことが、子どもたちの成長に繋がっていると少しずつ実感できてきた段階だと思う。保育園留学に関しても同様に、これから実績を積んでいけたらいいと願いながら、私たちも様々なことを受け入れ協力していきたい。

E委員

・少子高齢化で商店や医院が廃業され、JR羽越線も赤字を抱え維持ができるのか不安である。職場が市街地はやむを得ないが、将来、子どもに迷惑をかけたくないと考えると、二次交通の整備も含め暮らしやすい地域づくりを進

めていけたらとよいと思う。

K委員

・資料3の、12ページの遠距離通学補助の件は大変ありがたい。中高一貫校ができるので、補助の対象を中学生まで広げることにより、市街地への転居の歯止めになると思う。JR村上～酒田間が50億円の赤字路線の公表があり、このままだと路線が廃止になるのではという不安により、市街地等への流出に拍車がかかるのではないかと。高校生が電車通学できなくなれば、県立高校を選択することが難しくなり、転居する家族も増えると思う。何とか路線廃止とならないようにしてほしい。

五十嵐收一会長

・資料2の3ページと資料3の10ページの基本方針のタイトルが「海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備」となっているが、川や温泉という言葉を意図的に入れなかったのか。文章的に「自然豊かに暮らし続けられる」というよりは、「自然豊かな地域で暮らし続けられる環境整備」という方が文章的には繋がるのではないかと。

・現状と課題の中で、医療という部分について触れておくべきではないか。基本方針に示すと、具体的な施策を載せることになり、民間の医療関係もあるので難しい部分はあると思う。しかし現実の課題として、医療についてこういう課題があるという部分だけでも触れておくべきではないかと思った。今後、調整等お願いしたい。

・それでは、ここで協議を終了する。委員の意見を参考に計画の最終的な取りまとめをお願いする。